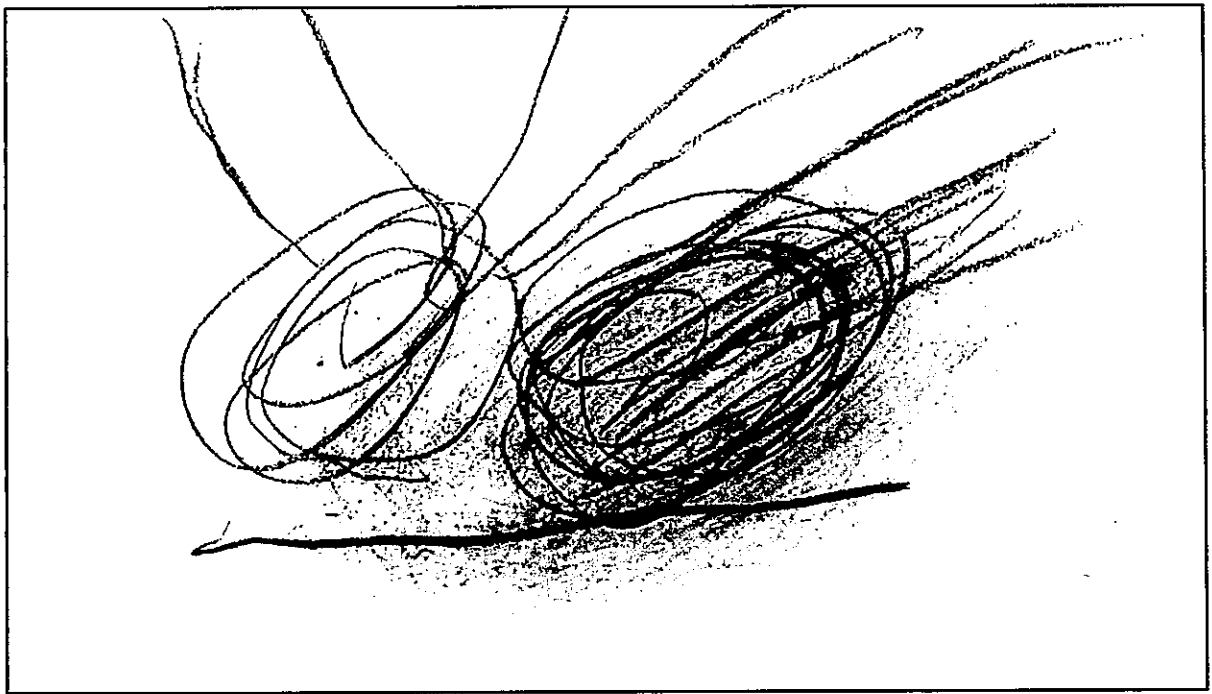


社会福祉法人 クローバー

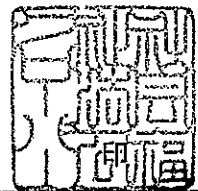
2018年度 事業報告



2019年06月01日

理事長

高橋 良壽



業務執行理事

川端 亜希子



目次

- P. 1 法人理念, 支援姿勢, 支援のふりかえり, 支援の目標
- P. 3 ライフスタイルを読み解き支援に活かす
～どこで誰とどのように暮らすか～
- P. 5 理事会・評議員会の開催状況
- P. 7 支援のふりかえり
- P. 9 サービス向上委員 意見傾聴 報告
- P. 10 その他事業報告
- P. 11 運営協議会報告
- P. 12 自立支援協議会
- P. 15 生活介護事業所 クローバー 事業報告
- P. 21 地域活動支援センター いとぐるま 事業報告
- P. 25 共同生活援助 ゆうきの里 事業報告
- P. 31 相談支援事業所 マロン 事業報告
- P. 33 事故、ひやりはつと事例 報告
- P. 35 2017年度 利用者人数【月の延べ人数】
- P. 36 2017年度 後期レクリエーション活動報告
- P. 37 2017年度 後期防災訓練報告

法人理念

安心 信頼 幸福

理念の基に…

法人および各事業所は社会資源であるということを実感し常に信頼を第一に考え、安全で安心して、誰もが長く利用できるものでなければならない。

法人は常に利用者にとって、職員にとって、社会においてその具体的な役割を描き事業を遂行していくものとする。

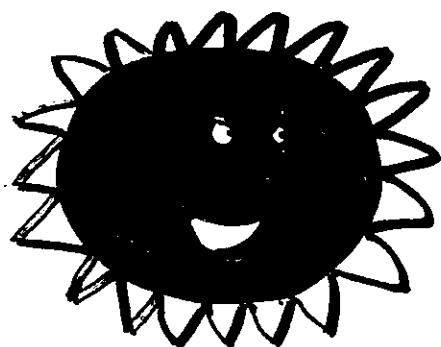
職員は法人の理念を理解し、利用者ならびにそのご家族と信頼関係を築き、社会一般的な価値観に基づき、支援をおこなう。

また、職員自らも自分の将来像を描き、安定した生活を維持するために

法人および職員間で協力し合い業務にあたるものとする。

そして職員も利用者も人として、あきらめない・にげない・くじけない・とらわれない、そのココロを大切に活動をしていく。

幸福であるために…



支援姿勢

- ①怒らない(声をあげない)
注意しない工夫をしよう
- ②伝える工夫をしよう
- ③ルールにとらわれすぎないようにしよう

支援のふりかえり(自己点検)

- ・(今の支援は)自分には能力があると
感じてもらえたか
- ・(支援者と)私は仲間だと感じてもらえたか



支援の目標

- ・自立する
- ・社会と調和して暮らせる

ライフスタイルを読み解き支援に活かす ～どこで誰とどのように暮らすか～

社会福祉法人クローバー
理事長 高橋良壽

要約

障がいのある方（以下、利用者）への支援は予測から始まる。そのため予測をするには利用者についての様々な情報が必要になる。一般的に情報収集は、アセスメントと言われ、アセスメントシート等を用いて利用者の状態を把握する。しかし、支援者がこのアセスメントシートにとらわれすぎると、支援者主体になりすぎるという懸念もある。

そこで、利用者の感情に注目しライフスタイルを読み解き支援に反映させることを行った。なお、ここではライフスタイルを、性格という内面的なものではなく、自分がどこに向かってどう動くのかという人生目標のようなもの、さらに人が集団において所属を確保するために選ぶ最も有効な戦略であると定義する。その点について事例を用いて説明をする。

1. 背景

2018年度は、あらたに相談支援事業を始めたこと、さらには共同生活援助（グループホーム）の支援計画作成に関与することになったことから、利用者の意思をくみとるといふ点について考える機会が増えた。

利用者支援においては意思決定支援が大原則である。しかし、利用者の意思をくみとることは難しい。そこで支援者は様々な予測を立てて支援をする。そのために必要になるのが利用者の情報である。一般的には情報収集はアセスメントと言われ、アセスメントシート等を用いて訪問や面談等によって利用者の状態を把握する。このアセスメントは支援場面において「かなめ」であるとも言われている。しかし、田中（2018）は、アセスメントシートは非常に重要なツールではある。ただし、アセスメントシートは支援者が作った枠組みであり、それをうめるだけでは支援者主導の面接で終わってしまうと注意をしている。そこで非言語コミュニケーションの感情に注目をした。

また感情については、向後（2017）は、感情は自分のライフスタイルが脅かされたときに発動するものでこの場をどうかしようという目的を持っているとしている。つまり、泣いたり、怒ったり、イライラしたりしている状態は自分の理想とする生活が脅かされている、いち早くこの場から離れたい、どうかして欲しいというメッセージととらえる。さらに、楽しそうにしている、ニコニコしているという状態は、いつまでもこの状況を維持したい、今とても心地よいというメッセージととらえる。

そこで、利用者の支援計画を作成する際は、利用者の感情に注目し、ライフスタイルを見つけることに重点をおいた。なお、ライフスタイルは障害者総合支援法（2013）第一章第二条の二における「どこで誰と生活するかを選択の機会」および「地域社会において他の人々と共生すること」他と一致する。

2. 方法

まず支援計画更新前にケース担当支援者がご本人と面談をおこない、ご本人の希望の他、日々、楽しいと感じる場面や、辛い、悲しいと思える場面を語ってもらった。また

利用者によっては、ご家族の話や卒業した学校の先生に同様の場面を聞いた。その後、会議を開催し収集した情報の他、直接支援にあたる支援機関の支援者から同様の話を語ってもらいそれをひとつひとつ付箋に記した。なお、利用者によっては直接会議に参加してその場で語ってもらった。

次に付箋に書き出したことを、近しい内容ごとまとめて、関連付けを行い体系化した。そうすることでその利用者の人となりが見え、その利用者がどのように生活したいのかが見えてくる。その概念をライフスタイルとして、具体的な支援内容について検討をおこなった。

3. 事例

支援者からは、ご本人の言うことが話す相手や事業所によって変わってしまい何が本当なのか、またどの答えを尊重して良いのかわからないという課題があがった。実際に複数の支援者が異なる場面でご本人のお話をうかがうと、主訴はことになっていた。そこで、会議においてこの方のエピソードを集めて体系化した。

集まったエピソードは、この利用者の心地よさそうな側面として「人あたりが良い」「みんなから声をかけられているときに嬉しそう」「自分が買って来たお土産をみんなにふるまっているときに嬉しそう」「何かを頼まれると嬉しそうに手伝ってくれる」などであった。さらに不快そうにしている側面として「他の利用者からうるさい、あっち行ってと言われて泣き出した」「支援者が注意するとすぐに謝る、何回も謝る」であった。

以上のエピソードからこの利用者のライフスタイルは、誰からも好かれていたい、仲良くしていたいということがわかった。反対にちょっとでも他者から冷たい言葉をかけられるとダメージを受けるということもわかった。

この利用者は共同体に所属するために、誰にでも愛想を良くするという行動をとっている。よって、支援者が課題とした人によって発言内容を変えるというのは、その支援者に嫌われたくない、常にその支援者の言う通りにするのが良いと思っただけの行動である。それはその利用者にとっての最善の策と考える。

実際の支援場面においては、支援者によって発言を変えるということを前提として対応することが必要であり、ご本人が混乱しないように選択肢を最小限にする等の工夫も必要である。

まとめ

私たちはライフスタイルに応じた所属先を選び生活をしている。しかし障がいがあると自分で所属先を選ぶことができず、親や先生が選んだ所属先で活動や生活をするところがある。そこで重要となるのがライフスタイルを読み解くことである。そのためには感情に注目をして、利用者がその共同体で心地良くすごすということを第一に考えていくことが大切である。

引用文献

- 向後千春（2017）幸せな劣等感 小学館新書。
- 厚生労働省（2013）障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）
- 田中和彦（2018）失敗ポイントから学ぶ PSW のソーシャルワークアセスメントスキル 中央法規出版。

報告事項	理事会・評議員会の開催状況
報告者	理事長 高橋良壽
報告内容	<p>◎第 63 回 理事会（定時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日時・場所：2018/06/08／18:00～19:45／クローバー（深谷） ▶ 出席者：理事 7 名（欠席 0 名）／監事 2 名 ▶ 議案： <ol style="list-style-type: none"> 01. 2017 年度 事業報告 02. 2017 年度 決算報告 03. 監事監査報告 04. 経理規程の改定（案） 05. 横浜市福祉局 監査課 監査報告 他 06. 評議員の推薦 07. 評議員会の開催 <p>◎第 64 回 理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日時・場所：2018/12/12／18:00～19:30／クローバー（深谷） ▶ 出席者：理事 6 名（欠席 1 名）／監事 2 名 ▶ 議案： <ol style="list-style-type: none"> 01. 2018 年度 前期事業報告 02. 2018 年度 前期会計報告 03. 2018 年度 第一次補正予算 <p>◎第 65 回 理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日時・場所：2019/03/12／18:00～20:00／クローバー（深谷） ▶ 出席者：理事 7 名（欠席 0 名）／監事 1 名 ▶ 議案： <ol style="list-style-type: none"> 01. 2019 年度 事業計画 02. 2019 年度 予算 <p>◎第 58 回 評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日時・場所：2018/06/28／18:00～19:45／クローバー（深谷） ▶ 出席者：評議員 7 名（欠席 1 名）／理事 3 名 ▶ 議案： <ol style="list-style-type: none"> 01. 2017 年度 事業報告 02. 2017 年度 決算報告 03. 監事監査報告 04. 経理規程の改定（案） 05. 横浜市福祉局 監査課 監査報告 他 <p>◎第 59 回 評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日時・場所：2018/12/17／18:00～19:30／クローバー（深谷） ▶ 出席者：評議員 8 名（欠席 0 名）／理事 1 名

	<ul style="list-style-type: none">▶ 議案：<ul style="list-style-type: none">01. 2018年度 前期事業報告02. 2018年度 前期会計報告03. 2018年度 第一次補正予算◎第60回 評議員会<ul style="list-style-type: none">▶ 日時・場所：2019/03/18／18:00～20:00／クローバー（深谷）▶ 出席者：評議員8名（欠席0名）／理事3名▶ 議案：<ul style="list-style-type: none">01. 2019年度 事業計画02. 2019年度 予算
--	--

2018年度 後期 事業報告

報告事項	支援のふりかえり
報告者	相談支援部長 川端亜希子
報告内容	<p>各事業所で毎月の職員会議にて支援のふりかえり（自己点検）を行っています。自分たちが行っている日々の支援を振り返り、次の支援がより良い支援となるよう努めています。</p> <p>■ テーマと内容（抜粋）</p> <p>1. 利用者同士の関わりについて</p> <p>①利用者同士のトラブルを事前に回避する方法はないか。</p> <p>《意見》</p> <p>ひとつの物を一緒に使うこととしていたら、時に取り合いなどのトラブルが起きることがある。支援者としては、物の共同使用も利用者同士の関わりに繋がると考えている。</p> <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じものではなく、ひとつずつ用意することで回避することができる。トラブルになると予測できることは、トラブルにならないように事前に対応する。 ・利用者同士の関わりは、他の場面で関係を築くことができるように支援していく。 <p>②特定の利用者に対して、周りの利用者が過剰に自己防衛したり、行動に敏感に反応している場面がある。</p> <p>《意見》</p> <p>過去の経験や職員の言動から、その利用者に対して周りの利用者はマイナスなイメージをもっているのではないか。</p> <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者がその行動をする理由やその時の状況を職員から周りの利用者へ伝えることで、利用者同士の理解を深めることができる。 ・職員の声かけや対応、態度が大きな影響を与えることを意識する。否定的な声掛けではなく、肯定的な声掛けをする。

2. 利用者の意思決定支援について

疾病による食事制限があるのに制限されているものを食べたいとの希望があったときの支援。

《意見》

- ・利用者の食べたいだけ食べたいという言葉は、利用者の意思決定と捉えることができるのではないか。
- ・食べることが好きな人に対して、食事制限というリスクを回避しなければならないのか。
- ・利用者にとってそのような内容の説明を受けること自体がストレスになる。ダメなものはダメと提示した方が良い。

《まとめ》

- ・本人の言葉だけを鵜呑みにしないことが大切。契約書には利用者の健康状況に注意すること、健康保持のための適切な支援をすることとなっている。支援者には福祉職としての義務がある。
- ・利用者の意思決定だからと言って支援をしないと支援を放棄したことになるし、放任になってしまう。
- ・一緒に通院して具体的に主治医に聞くなどの支援をしながら、一緒に考えていくことができる。

社会福祉法人クローバー

2018年度 後期 事業報告

報告事項	サービス向上委員 意見傾聴 報告
報告者	相談支援部長 川端 亜希子
報告内容	<p>■ 日中事業所</p> <p>日程：2019年1月18日(金)</p> <p>時間：10時～14時</p> <p>場所：生活介護事業所クローバー</p> <p>対応：サービス向上委員 木内 菜穂子氏 (社会福祉法人 和みの会 特別養護老人ホーム 和みの園 施設長)</p> <p>スケジュール：</p> <p>10時 プログラムの見学，その中で意見聴取。</p> <p>12時 ご利用者のみな様と一緒に昼食しながら意見傾聴</p> <p>13時 掃除や休憩を一緒に過ごしながら、意見傾聴</p> <p>サービス向上委員 木内氏より：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業を一緒にしながらだったため、ご利用者のみな様も構えがなく話しやすい様子だった。 ・顔を覚えてくださったご利用者様もいて嬉しかった。 ・壁に貼ってある写真が素敵で、話すきっかけになり、楽しい思い出を話してくださった。 ・昼食は、野菜が多く、美味しかった。 ・気になることは特になかった。 <p>■ グループホーム</p> <p>日時：2018年12月5日(水)</p> <p>時間：16時30分～20時00分</p> <p>場所：共同生活援助 いちごの家・みかんの家</p> <p>対応：サービス向上委員 田所靖子氏 (中途障害者地域活動センター とつかわかば 施設長)</p> <p>スケジュール：</p> <p>16時30分～ ご入居者様の居室，共有スペースにて意見傾聴 (場所は、ご本人のご希望に沿って、ひとり10分程度)</p> <p>サービス向上委員 田所氏より：(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事：メニューを増やしてほしい，美味しい，量もちょうど良い ・生活：集団生活なのでいろいろあるが、楽しく生活している， ゆっくりと過ごせている，楽しい，満足している，日中施設で仕事を頑張っている ・困りごと：入居者同士の間人間関係，トイレが汚れているとき ・楽しみ：休日の外出，GHのイベント，ガイドヘルパーと外出してお買い物をする，GHのお風呂，ビールを飲むこと

社会福祉法人クローバー

2018年度 後期 事業報告

報告事項	その他事業報告
報告者	相談支援部長 川端亜希子
報告内容	<p>■ 全体防災会議</p> <p>日程：2018年11月20日（火）</p> <p>時間：19時～20時</p> <p>場所：クローバー（深谷）</p> <p>内容：下記の項目について各事業所の施設長、リーダー、主任が集まり検討した。</p> <p style="margin-left: 20px;">① 災害時の各事業所の動きや約束事などの確認</p> <p style="margin-left: 20px;">② 災害時の各事業所で協力するために必要と思われるルール</p> <p style="margin-left: 20px;">③ 滞在者名簿の作成に必要な項目</p> <p>結果：各事業所でできること、するべきことを出し合い、情報を共有した。 この話し合いをもとに、2019年度の防災会議にて法人内のルールをまとめていく。</p> <p>■ 全体防災訓練</p> <p style="margin-left: 20px;">訓練内容など準備が整わず未実施</p> <p>■ 法人職員健康診断</p> <p>日程：2019年2月8日（金）</p> <p>時間：14時～15時</p> <p>場所：クローバー（深谷）</p> <p>対象者：パート職員、宿泊勤務職員</p> <p>医療機関：医療法人社団 成澤会 清水橋クリニック</p> <p>検査項目：身体測定（身長、体重、胸囲）、視力検査、尿検査、血圧、血液検査、聴力検査、心電図、胸部X線、診察</p> <p>■ 全体研修（第1回）</p> <p>日程：2019年3月19日（火）</p> <p>時間：17時～18時30分</p> <p>場所：クローバー（深谷）</p> <p>参加者：鎌田、川端、春田、海老原、泉、荻津、松下、加藤</p> <p>テーマ：意思決定支援について考える（人権研修）</p> <p>講師：理事長 高橋 良壽</p> <p>内容：① 厚生労働省 意思決定支援ガイドライン 読み合わせ</p> <p style="margin-left: 20px;">② 演習事例を使用してグループワーク</p> <p style="margin-left: 20px;">③ 総合支援法と法人理念について</p> <p>※第2回は、日程調整ができず年度内に実施できず。2019年度前期に行うこととする。</p>

社会福祉法人クローバー

2018 年度 後期 事業報告

報告事項	運営協議会報告
報告者	事業部長・管理者・運営協議会委員長 鎌田功
報告内容	<p>■第2回 運営協議会 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 2018年11月2日(金) 13:30～ ・場所 生活介護事業所クローバー 2階 ・地域とのかかわりについて <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の運営協議会から話が出ている「地域とのかかわり」をテーマにして、社会福祉法人クローバーの各事業所と地域とのかかわりについて、運営協議会委員長の鎌田が資料を基に現状報告をおこないました。 ・現状報告では、地域とのかかわりのなかでも、とりわけ防災等の相互協力については、自治会・町内会も今後取り組んでいきたいこととして意識の高まりが見られているようですが、当法人の各事業所も利用者の避難誘導に不安があるため、地域と協力体制ができることを望んでいることと、地域に支えていただくばかりではなく、当法人にも協力できることがあれば地域の役に立ちたいと考えているとのことでした。 ・この日の運営協議会には、運営委員で深谷小学校地域防災拠点運営委員会委員長の小島委員に代わって、副委員長の景浦様が出席されました。景浦様からは災害時に障害のある方たちが地域防災拠点を利用するのにあたり、何をやってもらいたいかを事前にわかっているといいので、やってもらいたいことをリストにして教えてほしいとのことでしたので、今後防災会議等で話し合う機会を持ちたいと考えています。 ・また、景浦様には深谷地域の災害事情についてもお聞きしましたが、大雨の影響で近くを流れる川が氾濫したり、道路が冠水したりすることもあります。何よりも怖いのは火事とのことでした。深谷地域には至るところに森林が多く残っていますが、森林が火事になると消火活動が難しく、クローバー深谷のまわりにも竹林があるので気をつけた方がいいとのことでした。その他の委員の皆さまからも防災用品の情報等を教えていただきましたので、今後防災用品を充実させる際の参考にさせていただきます。

2018年度 後期 事業報告

報告事項	自立支援協議会
報告者	事業副部長 春田恵更加
報告内容	<p>【担当者会】 担当：泉</p> <p>2019年1月17日戸塚区総合庁舎3階多目的スペースにて戸塚地域自立支援協議会・第45回担当者会が実施されました。</p> <p>今回は、計画相談について「本人支援のため、顔の見える関係をつくろう」がテーマでした。</p> <p>相談支援部会の方より、計画相談の概要の説明や事例紹介があり、参加者でグループディスカッションをして、参加者の施設の計画相談の現状や疑問を話し合いました。市の方針としては、今後すべての方々に計画相談支援を導入していきますが、計画相談事業所の量が少ない事などで、支援が普及するまでは、時間を要するそうです。個別支援会議で、どのようにご本人のニーズを聞き取り、計画を作成するか、など疑問が挙げられました。今回の担当者会では、計画相談の契約からサービス利用開始までの流れを理解する事ができ、支援者同士が同じ方向を向いて支援をしていく計画相談の目的を深め合う事ができました。</p> <p>【地域啓発】 担当：高垣</p> <p>障がいのある方や、支える団体のことなどを市民に知っていただくことを目的として活動しています。</p> <p>2018年度後期は10/9(火)、1/23(水)、3/6(水)の全3回の定例会を行いました。イオンスタイル東戸塚店にて行なっている絵画の展示は、分科会で作品と一緒に展示をしている感謝状と共にイオン側から「継続して欲しい」と好評を頂いており、今後も続けていきます。</p> <p>分科会内で地域の方のグループホームについての理解が進んでいないという意見がありました。その意見を踏まえ、来年度からイオンでの絵画展示にて各法人が運営しているGHについても写真・紹介文を掲示することになりました。</p> <p>こちらから情報発信することも重要ですが、地域の方々が福祉について「何を知りたいのか」を吸い上げることも必要で、それを続けていくことで福祉施設への理解が得られるのではないかと思います。地域の方々に福祉施設の理解を得るにはどのような工夫が必要なのかを考えさせられる機会になりました。</p> <p>【リスクを考える分科会】 担当：川村</p> <p>後期では、引き続き日々の中に潜むリスクについて議論し改善点を見つけ共有しました。また、各事業所で催しがある際には障害理解のための出前講座を行い障害をお持ちの方への理解を呼び掛けました。</p>

分科会に出席して1年を振り返ると、障害者支援にまつわるリスクが潜んでいることを知ることができました。例えば怪我や転倒、体調不良等の健康リスクや高齢化や経営・運営に関してのリスクなど自分だけが知っている意味がなく、周りと共有し支援に生かしていかなければならないと強く感じました。

【地域を作る分科会】 担当：松下

自分達の地域で埋もれてしまっているニーズの発掘をする為に活動しました。今年度は、戸塚区の拠点として、新たに、戸塚駅西口に「フラットステーション とつか」、深谷町に「フラットステーション ドリーム」に相談場所を設けて、知的障害者の為の「お困りごと」相談会を実施したり、障害福祉制度及び事業所紹介を行うケアプラザ学習会を実施しつつ情報交換を行ったりしました。又、後期からは、地域を作る分科会の会員が講師となって、ミニ講座を開催しました（①2018. 10. 13、②2018. 12. 25、③2019. 3. 9）。ミニ講座の講師を担う事で、主体的に地域に発信する機会が与えられているとの自覚が芽生えると実感しました。今後は、GHとケアプラザとの密な連携も必要だと思われました。

【GH連絡会】 担当：川端

入居者の高齢化についてふたつのテーマについて話し合いを行った。

①入居者の高齢化からみるGHの役割について

各GHの現状を具体的に出し情報共有しながら話し合いを行った。その中でGHは終の棲家なのかということを考える必要も出てきた。

②入居者の高齢化による具体的な困りごとについて

実際のケース事例をだしながら話し合いを行った。具体的には、医療的なケアが必要になったときに看護師が常駐していないことが不安。完全なバリアフリーとはなっていないGHが多く、歩行や移動に問題が生じた場合、利用の継続が難しくなる。生活リズムが変わることにより、夜間勤務の確立など職員体制の変更の必要性とそれに伴う入居者同士のトラブルが増える。などがあがりました。

また高齢化に伴う課題のひとつとして考えられる嚥下について学ぶ機会としてGH連絡会主催で研修を開催した。区内GHを中心に参加を募ったのち、自立支援協議会にて区内事業所に周知し、当日23名の参加があった。

なお、研修の詳細は以下のとおりである。

【GH連絡会主催 摂食・嚥下研修】

研修名／楽しく食事を続けるための基礎知識 ～姿勢・食物形態・雰囲気～
講師／鶴見大学歯学部付属病院 管武雄 氏

開催日／2019年02月02日（土）13:00～16:30

場所／活動ホームひかり

研修後参加者より、ミキサー食やトロミなどを試食したことで、提供さ

れる側の立場にたって考えることができた。講師の「支援者が利用者を変えようとしてはダメ。支援者が変わる。」という言葉が印象的だったという感想があった。

2018年度当事者活動は、社会福祉法人ひかりの夏祭りに当事者(希望者)と支援者で参加した。

【情報交換会】 担当：海老原

- ・ 就労委員会、生活介護委員会に分かれて情報共有や連絡事項の確認
- ・ 事業所見学 (①H30. 11. 13 ②H30. 11. 20)
- ・ 学校との情報交換 (H31. 1. 24)
- ・ 来年度取組 (H31. 3. 6)

事業所見学として「舞岡の風」を見学させていただき、活動内容や取り組みについて説明を受けています。自立支援協議会の在り方についても話が及び、理念やビジョンが不明確であるといった意見も出ました。

【泉区自立支援協議会 GH 部会】 担当：加藤

2018年度後期、参加実績なし。

2018年度 後期 事業報告

報告事項	生活介護事業所クローバー，従たる事業所 B e g i n
報告者	クローバー【1階グループ】リーダー鈴木優梨 【2階グループ】リーダー宮川貴子 従たる事業所 B e g i n 施設長 海老原克憲
報告内容	<p>職員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クローバー <ul style="list-style-type: none"> 【1階グループ】 <ul style="list-style-type: none"> リーダー 鈴木優梨（製菓担当） 職員 近藤勇太（製菓担当） 【2階グループ】 <ul style="list-style-type: none"> リーダー 宮川貴子（創作担当） 職員 川村洋文（受注担当）、高垣陽一（創作担当） パート職員 6名（うち調理担当5名） ・クローバー（B e g i n） <ul style="list-style-type: none"> 施設長 海老原克憲 職員 中村美瑠 パート職員 5名（うち調理担当3名） ・管理者 鎌田 功 ・サービス管理責任者 海老原克憲 <p>1. 利用者の状況</p> <p>(1) 利用状況</p> <p>※別紙</p> <p>(2) 利用開始・退所</p> <p>① クローバー</p> <p>【1階グループ】</p> <p>3月27日付けで男性1名退所 合計8名（男性6名、女性2名）</p> <p>【2階グループ】</p> <p>合計13名（男性6名、女性7名）</p> <p>② B e g i n</p> <p>合計9名（男性5名、女性4名）</p> <p>6月19日より女性1名が週1日の利用開始。10月より週2日に変更。</p> <p>※生活介護事業所全体の利用者 合計30名（3月末日現在）</p>

2. 活動の状況

(1) 工賃収入につながるプログラム

① クローバー深谷

【合同】メール便（書類搬送業務）、地域情報誌ぱど（ポスティング）
釜寅（宅配用セットづくり）、銀のさら（チラシはさみ）
クロネコDM便（ポスティング）

【製菓班】製菓製造・販売

平均工賃 約 1,316 円／月

年度末賞与 20,000 円

【受注班】受注作業全般

平均工賃 約 1,941 円／月

年度末賞与 30,000 円

【創作班】天然石ビーズ、ガラスビーズプレスレット、カレンダー販売

平均工賃 約 900 円／月

年度末賞与 20,000 円（週 5 日勤務）、8,000 円（週 2 日勤務）

② B e g i n

製パン・クッキー（店舗販売・外注）、ビーズアクセアリー

平均工賃 約 918 円／月

冬季賞与 3,000 円

(2) 生活プログラム

① クローバー

【1階グループ】買物（製菓の材料や備品を購入）、プール、音楽鑑賞

【2階グループ】洗濯、買物（食材、日用品）、施設内の環境整備、
地域清掃、プール、音楽鑑賞

② B e g i n

絵画、音楽、買物、地域清掃

(3) 地域との関わり

① クローバー

【1階グループ・2階グループ】

・地域のイベントに参加・出店

深谷小コミュニティフェスタ、原宿ふれあいフリーマーケット、
深谷俣野地域ケアプラザ祭り

・定期的な配達

高齢者施設出張販売、深谷小学校放課後支援キッズクラブ

・クロネコDM便やぱど配布を行なうことで地域の方々と挨拶を交わす
機会が多くあり、クローバーの認知度が上がっているように感じている。
また防犯面においても微力ながら貢献している。

- ② B e g i n
パンの外注販売（Y M C A学童クラブ）
中区寿町総合労働福祉会館図書室に絵画作品を常設展示。
上記に関連して、ことぶき作品展（12月）に作品出展。

(4) 社会貢献的な取組

- ① クローバー
深谷地区のDM便配達やばど配布を兼ねて防犯に貢献。
災害時の地域住民受け入れ態勢と備蓄品配布の準備。
- ② B e g i n
隣接する公園での美化活動（ゴミ拾い・分別作業）

3. 会議、研修の状況

(1) 職員会議

- ① クローバー
【1階グループ】
個別支援計画の確認、支援の振り返り、ケースについて
【2階グループ】
創作製品（ビーズ、カレンダー）への取り組みの工夫や販売方法の検討
個別支援計画の確認、支援の振り返り
- ② B e g i n
各ケース検討・個別支援計画の確認（面談報告）、支援の振り返り

(2) メンバー会議

- ① クローバー
【1階グループ】
- ・ 製菓の製造方法、作業環境、取り組み方、販売方法をより良くするための聞き取りや意見交換
 - ・ 行事内容についての希望の聞き取りや意見交換
→旅行の感想、クリスマス会で食べたいメニューの希望を確認
- 【2階グループ】
- ・ 食器洗い、トイレ掃除、ごみ集め等の当番制について
→希望者を募り、曜日固定の当番制にすることに決定
 - ・ 次年度の行事企画についての意見交換
→旅行の行事は必要か、旅行は日帰りか1泊旅行がいいか、行いたい企画はあるか。など
- ② B e g i n
- ・ 防災について（11月9日）
→B e g i nで災害が起きた時、退勤前に地震が起きた時、買い物

プログラム中に地震が起きた時と様々な状況を想定して、どう対応するか全員で確認する。

- ・ 体調管理について（1月4日）
→特にノロウイルスとインフルエンザについて、主な症状と対応方法について確認し、風邪とは違う点について理解を深める。
- ※利用者の中から毎回司会を選出し進行する形態は継続中

(3) 研修

① クローバー

- ・ 神奈川県 食品の適正表示推進講習会
（10月24日 藤沢合同庁舎 参加：鈴木）
- ・ 戸塚区地域自立支援協議会
ほんねのはなしをしてみませんか
～ふだんのせいかつ、みなさんにつたえたいこと～
（10月25日 戸塚区役所 参加：宮川、近藤、川村、高垣）
- ・ 戸塚区地域自立支援協議会計画相談について
（1月17日 戸塚区役所 参加：宮川、鈴木、近藤、川村、高垣）
- ・ 医療機関との連携の進め方
（1月23日 ウィリング横浜 参加：伊藤）

② B e g i n なし

4. その他

(1) 看護師からの助言

① クローバー

- ・ 巡回相談（9月12日、10月10日、11月14日、12月12日、1月9日、2月13日、3月13日）
- ・ 糖尿病疾患のある利用者のご家族への面談と服薬を確実にを行うためのアドバイスをいただく。
- ・ 痒みを伴う皮膚の状態の観察と対処法のアドバイスをいただく。

② B e g i n

- ・ 巡回相談（10月31日、11月28日、12月26日、1月23日、2月27日、3月27日）
- ・ 各利用者の健康診断の結果をもとに健康状態を把握していただき、アドバイスをいただく。

(2) 自主的な改善点

① クローバー

【1階グループ】

- ・ 製菓作業の効率化のための備品購入。
- ・ 製菓担当利用者・職員の検便を実施（12月）。

【2階グループ】

- ・ 乾燥する時期の湿度を確保するため、加湿器を運転して対応する。
- ・ トイレのスリッパをはき替える場所の可視化をして分かりやすくした。

② B e g i n

- ・ 更衣室の段差解消工事を実施し、更衣室のロッカーまで段差なく出入りできるようになりました。
- ・ 公用車の車両交換ため、福祉寄付車両に応募しましたが不採用となり、継続して情報収集にあたりたいと思います。

(3) その他

① クローバー

- ・ 3月末に男性職員1名退職

② B e g i n

- ・ 3月末に男性パート職員1名退職

5. まとめ

① クローバー

【1階グループ】

恒例となりつつある原宿ふれあいフリーマーケットに加え、地域のケアプラザや小学校から声をかけていただき、初めてのイベントにも参加するなど、後期も様々な場所で販売の機会をつくることができました。注文をいただくことも増え、お菓子作りをする時にはメンバーの皆様から「これは誰の注文?」「どこに売りに行くの?」といった声が聞かれるようになり、買ってくれる人や食べてくれる人のことを思いながら作業に取り組んでいました。

【2階グループ】

受注班は、ほぼ毎日クロネコDM便の配達があります。利用者の歩行ペースにばらつきがあるので、配達ルートを工夫し、利用者一人ひとりのペースで歩くことができるようにしました。

創作班はビーズプレスレットやキーホルダーづくりでは、今までとは違う種類のビーズを購入して、新しいイメージの製品づくりを行いました。販売機会が少なくなりがちな後期ですが、今年度は昨年度よりも多くの販売機会をいただくことができました。また、カレンダー作成ではステンシルや絵を組み合わせたすてきな製品ができ、購入した皆さんにとっても喜んでいただきました。

② B e g i n

前期中途で利用開始となった女性利用者の方はB e g i nの活動に慣れた様子で、好きな製パン作業では大いに活躍されています。また、B e g i nの雰囲気も気に入っていただいたようで、利用日数が10月から週2日に増えました。ご本人は音に過敏なところがあり、

共同生活の賑やかさが苦手だと感じる場面もありますが、Beginを好きな気持ちを受けとめて、一日を楽しく過ごしていただけるよう心掛けています。

活動については、パンやクッキーの材料の値上げ傾向が止まらず、ビーズも一部の材料が販売停止となるなど、材料の確保が難しい状況がありますが、Beginでは新規利用者の獲得が必要なこともあるため、今後既存の活動については内容や方法の見直しを図りながら、様々な活動に多くの利用者が参加できるようにしてまいります。

2018 年度 後期 事業報告

報告事項	地域活動支援センター いとぐるま
報告者	施設長 泉 和真
報告内容	<p>職員体制 施設長 泉和真、職員 金子敦美、パート職員 3 名（うち調理担当 2 名）</p> <p>1. 利用者の状況 (1) 利用状況 ※別紙 利用開始・退所 合計 15 名（男性 9 名、女性 6 名） 10 月 1 日女性 1 名利用開始。2 月 1 日女性 1 名利用開始。</p> <p>2. 活動の状況 (1) 工賃収入につながるプログラム 機織り、受注作業（岩塩封入作業、パンフレット封入作業） はがき作り 平均工賃 463 円／月 冬季賞与 2,000 円（3/29 支給）</p> <p>(2) 生活プログラム（創作活動、買物、調理等） 私プログラム（利用者希望プログラム）、買物、音楽活動 園芸活動、運動（公園のウォーキング・散歩など） フリースペース（作品展示や接客）</p> <p>(3) 地域との関わり ・美化活動（あおぞら公園を中心に、施設周辺の地域清掃） ・名瀬中学校職場体験 12/3 中学部特別級生徒 3 名と教員 1 名来所。 一日いとぐるまで作業体験をした。</p> <p>(4) 社会貢献的な取組 フリースペースで、ペットボトルキャップと使用済み切手を回収し、 途上国にワクチンなどを送る、明治安田生命の事業に協力。</p> <p>3. 会議、研修の状況 (1) 職員会議 月間ケースまとめ、支援の振り返り、行事について</p> <p>(2) メンバー会議 ・私プログラムの内容について →利用者それぞれに希望を聞き、ビーズ、漢字書き、計算などがあがり、反映した。また、それぞれの私プログラムの内容や経過をメンバー会議で報告していただいた。</p>

・ 行事について

→2019 年度に実施したい行事などを利用者から意見をお伺いし、旅行、運動、喫茶外出などがあげられた。2019 年度の事業計画に反映する。

(3) 研修・その他

- ・ 自立支援協議会 担当者会 テーマ：計画相談
(1月17日 戸塚区役所多目的ホール 参加：泉)
- ・ 日中情報交換会 学校の進路の先生との情報交換
(1月24日 東戸塚ひかり 参加：金子)

4. その他

(1) 看護師からの助言

巡回相談 (月1回)

法人全体健康診断の診断結果をもとに、問題がある数値・項目などに関しての改善対策を受診した利用者ごとに分かりやすく助言していただき、職員からご家族にお伝えした。

(2) 自主的な改善点

12/4 10:30-12:00 障害者支援センター巡回相談実施。

P T (理学療法士) を派遣していただき、身体介助の必要な利用者の支援方法について介助の助言をいただいた。

(3) その他

- ・ 10/29~11/2 本郷特別支援学校 生徒1名実習 (5日間)
- ・ 10/28 戸塚カトリック教会より、10/28のバザー売り上げからのご寄付があった。
- ・ 12/20 保護者会実施 内容：前期事業報告 参加者3名
- ・ 12/27 美化月間大掃除 (エアコンフィルター、窓ふき、除菌など)
- ・ 12/28 赤い羽根共同募金 10/1~12/28フリースペースに募金箱設置。戸塚区社協に募金箱返却し、募金額を届けた。
- ・ 3/06 軽公用車 車検実施。

5. まとめ

10月から新規女性利用者1名の利用を開始しました。また、基幹相談支援センターとのつながりから、女性1名が後期にいとぐるまを短期利用をされ、2/1から利用開始しました。新しい仲間が増えた事で、利用者さん同士のコミュニケーションが活発になり、活気があふれてきました。お二人とも福祉サービスの利用が初めてのため、いとぐるまの活動を通して、充実した社会経験をつんでいただけるようにご支援していきます。

12月には名瀬中学校特別級の生徒3名の職場体験を実施しました。

機織り作業をして、3名ともマット作品を織っていただきました。

いとぐるまの利用者さんにとっても、生徒さんと仕事をしたりお話をしたりしながら一緒に過ごす事ができ、有意義な交流になりました。後日生徒さんから、職場体験の感想を書いたお手紙が届きました。いとぐるまが生徒さんの将来のために、職場体験のお役に立つ事ができて光栄に思いました。

新しい仲間が増えた事や、地域の方々との交流で、利用者さんもお相手を意識して喜びを感じて、成長していける様子がわかりました。

2018年度 後期 事業報告 (GH)

<p>報告事項</p>	<p>共同生活援助ゆうきの里 みんとの家、れもんの家、みかんの家、いちごの家 共同生活援助サービス管理責任者</p>
<p>報告者</p>	<p>みんとの家リーダー 荻津聡、れもんの家リーダー 松下文彦、 みかんの家リーダー 加藤学、いちごの家管理責任者 春田恵更加 共同生活援助サービス管理責任者 川端亜希子</p>
<p>報告内容</p>	<p>職員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんとの家 リーダー 荻津聡 職員 櫻井威津雄 ・れもんの家 リーダー 松下文彦 職員 上村裕伸、パート職員2名(宿泊・夕方パート) ・みかんの家 リーダー 加藤学 職員 遠藤昂、パート職員1名(宿泊) ・いちごの家 職員 宗像真理、パート職員4名(宿泊、早朝、夕方) <p>1. 利用者の状況</p> <p>(1) 宿泊状況 ※別紙</p> <p>(2) 利用開始・退所 各GHとも利用開始者・退所者なし</p> <p>2. 支援の状況</p> <p>(1) 日々の支援に関すること</p> <p>① みんとの家 入居者の身体機能の低下に伴い、配慮すべき点や支援方法を職員間で話し合い、現在の様子に合った支援を行った。転倒しやすくなっている入居者がGH内を移動する際は、傍で見守るようにして、転倒防止に努めた。 ご家庭の事情で宿泊を伴う帰省ができない入居者には、日帰り帰省をしていただいた。</p> <p>喫煙する入居者については、ホームの内外に関わらず、指定の場所で喫煙する事が定着した。なお、たばこの管理は職員がさせていただいているため、たばこの受け渡しの際に決められた場所で吸うようにお伝えし、理解を示していただいた。</p> <p>② れもんの家 入居者との日々の会話の中で、金銭管理等で不安なことや関心を抱いていることをお聞きし、必要な場合、休日の日中等を利用してお</p>

話をし、不安の解消に努め、安心して生活ができるように支援した。ガイド外出については、事前に行先や買い物の予定をご本人と職員とで話し合いながら決めていくよう支援した。また、危険な刃物等を購入しないよう説明をし、ガイドから戻った際、一緒に小遣い帳をつけながら確認した。またガイドボランティアとの外出月1回から2回へ増やすことができた。

③ いちごの家

職員の入退職が続き、慌ただしく落ち着かない期間を過ごしていただくことになった。

新職員には『いちごの家での生活の主体は入居者であり、職員主体とならぬよう、入居者の声に耳を傾ける姿勢を大切にする』よう伝えた。その一部として、ガイドの行き先やメンバー会議の議題など、入居者の“声”を反映したものとなった。入居者が悩んだり困っていたりする様子が見受けられる際には、「やってあげる」ではなく「一緒にやる・一緒に考える」を心掛け、入居者が自らの意思や希望を主張しやすい環境づくりに努めた。

④ みかんの家

自立心を育む支援を目標としているため、日々の生活の中で入居者のやることに職員はなるべく口を挟まないよう心掛けた。

また、旅行の行先や季節の行事の内容を決める際には、入居者が中心となって話し合えるよう、職員は環境づくりに努めた。

(2) 健康管理に関すること

① みんなの家

ガイド外出の際にご本人の健康の維持を目的として、歩く機会を設けていただくようお願いした。

季節の変わり目にはご本人と一緒に服装を選び気候に合った服装ができるよう支援した。

② れもんの家

中高年の入居者にはがん検診の受診を促した。食生活については昼食や間食の内容をレシート等でさりげなく確認し、食べ過ぎや甘い飲み物の飲み過ぎがあれば、個別にアドバイスをした。その結果、服薬の効果もあり、中性脂肪等の数値が基準値内に収まるようになった入居者もいた。

出勤や外出の際には気候に合った服装をご本人と一緒に選び、季節の変わり目には、ご家族の協力も得ながら衣替えを行った。

③ いちごの家

定期的な体重測定、気候に合った服装選び、帰宅時のうがい・手洗いの声掛けなど、体調管理に配慮した支援を行った。

職員が気候に合った服装のご提案をするも、受け入れていただけな

かったり、知らぬ間に着替えてしまったりする場面も多々あり、ひと工夫必要だと感じた。また、一部の入居者には毎朝の検温と血圧測定を実施した。

④ みかんの家

休日にホームで過ごす時間が多い場合、一人で外出できる方には適度な運動を行えるよう散歩や外出を促した。また、一人で外出することが困難な方はガイド外出時に体を動かせるような行程を組むなどの工夫をした。

食事については好き嫌いがある入居者が多く偏食で栄養バランスが偏り易いため、嫌いな物でも食べられるよう味付けを変えてみたり、小さく刻んでみたり工夫して提供している。

(3) 金銭管理に関すること

① みんなの家

ガイド利用後の金銭については、現金計算書と現金を入居者と一緒に必ず確認している。その他の入出金時は帳簿に記載し、現金の確認を行った。

② れもんの家

現金計算書と現金を入居者と一緒に必ず確認している。その他の入出金時は帳簿に記載し現金との確認を必ず行っている。

本人名義の銀行口座を作った入居者とは、支給された工賃をその口座に入金し、記入した通帳を提示して貰いながら、預貯金の確認をした。

③ いちごの家

ガイド代、ガイド代残金、工賃の金額、給食費の支払金額の確認をご本人と一緒にいき、最終的な残金確認は職員 2 名によるダブルチェックで行った。

④ みかんの家

ガイド利用時の買い物は事前に入居者と何がどれだけ必要かを話し合い、無駄遣い無く買い物ができるよう支援した。また、お金の大切さを理解していただけるようガイド利用後は使用額と残高を一緒に確認している。

3. 会議、研修の状況

(1) 職員会議

① みんなの家

支援計画の振り返り、支援の振り返り、行事予定、旅行の行先、ホームの修繕等

② れもんの家

支援計画の振り返り、支援の振り返り、行事予定、旅行の行先、

ホームの修繕等

③ いちごの家

支援計画の振り返り、支援の振り返り、行事予定、旅行の計画

④ みかんの家

支援計画の振り返り、支援の振り返り、クリスマス会の内容決め、入居者の高齢化への対応方法など

(2) メンバー会議

① みんなの家

・ 旅行先について

旅行でしたいこととして、温泉とカラオケの希望があった。それを11月の旅行に反映させて、行先を箱根・小田原方面にした。

・ 食事中に入居者の皆さんから日中の話を聞いたり、GHでどんなことをしたいかを聞いたりして、ご本人たちの関心事を知るように心掛けた。

② れもんの家

・ 旅行先について

レゴランド（名古屋市）へ行きたいとの希望があり、11月の旅行に反映させた。

・ 食事中やリビングで入居者が話している内容で行事に反映できることがあれば、反映しそれを活かした。

③ いちごの家

・ 旅行先について

メンバー会議での意見を計画に反映し、実施した。

職員の入れ替りもあり、“入居者発信の日常生活に密着した会議”には至らなかった。

④ みかんの家

・ クリスマス会

食事のメニューについては入居者に全て決めてもらった。また、クリスマスプレゼントについても皆さんで話し合い皆が納得する物を購入している。

・ 健康について

偏食が多い方や、運動不足の入居者がいるためバランスの良い食事・適度な運動が大切だという話し合いを繰り返し行うことで、好き嫌いが減ったり、休日に率先して運動に出掛けてくださるようになった。

(3) 研修

① みんなの家 なし

② れもんの家 なし

- ③ いちごの家 新採用職員への内部研修。
- ④ みかんの家 サービス管理責任者研修

4. その他

(1) 地域との関わり

- ① みんなの家 } 10月27日に地域防災拠点の鳥が丘小学校で行われた
 - ② れもんの家 } 地域の防災訓練に入居者と職員が参加した。
- これまで地域との関わりがあまりなかったので、地域の皆様に知って頂く機会となった。
- ③ いちごの家 職員退職に伴い支援体制が整わず、地域の盆踊りは不参加とした。
 - ④ みかんの家 いちごの家と合同で地域の防災訓練に参加する予定であったが、予定日と職員の都合が合わず参加できなかった。また、職員の入れ替わりが激しく、新人職員ばかりで代わりに参加を依頼できる環境ではなかった。職員体制が落ち着き、職員全員で持ち回りで参加できるようになれば、色々な会合にも参加しやすくなると思う。

(3) 自主的な改善点

- ① みんなの家
休日に外出予定のない入居者のためにブルーレイレコーダーを購入し、好きなテレビ番組を録画し鑑賞できるようにしました。
- ② れもんの家
リビングの椅子の老朽化が目立つようになり、入居者の使い易さを考慮しながら、8脚全てを買い替えた。また、2階でも食事を摂ることができるよう、折り畳み式の机と椅子のセットを購入した。
- ③ いちごの家
薬ポケットの隣に服薬一覧を掲示。【〇〇様 朝食後 1包】、【〇〇様 朝食後 1包+1錠】など、薬ポケットに入っている薬の量や種類が適切か確認できるようにした。
- ④ みかんの家
ホーム内の美化活動を強化し、入居者も一緒に掃除ができるよう休日の日中に掃除の時間をつくるなど工夫している。
入居者の高齢化に合わせ、浴室に介護用の椅子を置くなど少しずつ設備を整えている。

(4) その他

- ① みんなの家 なし
- ② れもんの家 非正規職員が3月に1名退職。

- ③ いちごの家 11月 正規職員1名 退職。
 1月 正規職員1名 入職。正規職員1名 退職。
 2月 正規職員1名 入職。早朝支援員1名 入職。
- ④ みかんの家 なし

5. まとめ

① みんなの家

入居者の健康管理については、毎日検温することで体調の変化を意識することができていますが、さらに生活習慣病予防についても意識を高めてまいります。

また、支援にあたっては入居者それぞれの個性を尊重し、障害の特性を踏まえた支援を行い、入居者が安心して生活していけるよう努めてまいります。

② れもんの家

入居者それぞれの個性を尊重し、障害の特性を踏まえた支援を行い、入居者が安心して生活していけるよう努めてまいります。また、加齢に伴って身体機能が低下し、来年で還暦を迎える入居者もいるので、高齢化を意識した支援と環境作りを考えていきます。

③ いちごの家

職員の入退職が続き、慌ただしく落ち着かない数か月を過ごしていただくことになってしまいました。新職員には『いちごの家での生活の主体は入居者である。職員主体とならぬよう、入居者の声に耳を傾ける姿勢を大切にす』よう伝えていきます。入居者が悩んだり困っていたりする様子が見受けられる際には、「やってあげる」ではなく「一緒にやる・一緒に考える」を心掛け、入居者が自らの意思や希望を主張しやすい環境づくりに努めます。

④ みかんの家

行事の内容だけでなく、日々の生活の中でも入居者同士で話し合っていたり、いろいろなことを自分たちで決められるような環境づくりをしています。また、ホームは自分の家だということを自覚していただくため掃除や洗濯などは職員と共に皆で協力し行っています。

これからも皆で話し合い、皆で協力できるようなホームにしていきたいと思っております。

2019年度 後期 事業報告

報告事項	相談支援事業所 マロン
作成者	相談支援専門員 川端 亜希子
提案内容	<p>1. 実施事業内容</p> <p>① 業務内容</p> <p>(1) 基本相談：障がい者等の相談に応じ、必要な情報提供や助言を行う。</p> <p>(2) サービス利用支援：丁寧にアセスメントを行い、サービス等利用計画の作成を行う。</p> <p>(3) 継続サービス利用支援：サービス等利用計画が適正であるかの見直しを行う。</p> <p>② 基本相談支援実績</p> <p>対象者：クローバー利用者，ご家族・他法人利用者 依頼者：ご本人・ご家族・事業所 方法：電話・訪問・面談・会議 内容： ご本人：生活について，将来について，サービス利用について， ご家族：ご本人の生活について，通所について，通所方法について 会議：ライフスタイルの確認，事業所間の情報共有，これからの支援について，新たなサービス利用に向けての調整 その他：ご家族の希望を担当ケースワーカーに伝達，移動情報支援センターとの連絡，認定調査立会い，通院同行，諸手続き同行</p> <p>③ サービス等利用支援・継続サービス利用支援</p> <p>対象者：他法人利用者 計画作成： 9月 3名 3月 1名 モニタリング： 9月 3名 3月 3名</p> <p>2. まとめ</p> <p>2018年度の始業式で「相談支援を始めます」と利用者みなさんに伝えたことから利用者からの相談が多くなりました。そのため今年度は基本相談が主な活動となりました。</p> <p>利用者からの相談は、今の自分の生活はどうなのだろうかという生活のことや、日々の金銭の使い方から預金残高などの金銭のこと、このまま今のサービスを利用し続けていくことができるのだろうかという将来のことまでさまざまでした。</p> <p>利用者からの相談については、きちんと聴き、内容を一緒に確認して、解決しなければならないことについては一緒に解決することができるように努めてきました。</p> <p>相談支援事業を始めたことで利用者みなさんが話をする場所と人が分かりやすくなったと感じています。</p>

社会福祉法人クローバー

事故、ひやりはっと事例 報告

2019/05/11

作成／（社福）クローバー 理事長 高橋良壽

2018年度後期に発生した事故・ひやりはっと事例から抜粋し報告します。今回の報告は支援者の価値観のゆるみから発生している事例が多いことからその点に関することを報告します。

1. 事故報告事例

1. 賞味期限切れの食材を使ってしまった

配食業者から届けられた食材の賞味期限が切れていたことに気付かず、使用してしまっただ。担当職員の確認不足であった。さらに本件を知った、管理担当職員より理事長への報告がなかった。そのため利用者への謝罪が遅れた。法人職員全員に危機管理意識をしっかりと持つよう注意喚起した。なお、本件による健康被害は報告されていない。

2. 職員のケガ

トイレの床マットがめくれていたところに足をとられ、職員が転倒し、頭部を裂傷した。当該職員含め、事業所の職員は床マットがめくれていることに気づきながら対応をしてこなかった。本件にかぎらず、事業所設備の破損にあらためて気を配り、速やかに修繕をするよう指示をした。

3. 利用者の転倒、ケガ

他利用者に他害行為をしようとした利用者に対して支援者が阻止しようとした。その際、当該利用者の後ろから手を引いたことにより、当該利用者がバランスを崩して転倒してしまいあざを作ってしまった。

緊急な対応が必要と判断し、あわてて対応したことである。しかし、支援をするときは必ず利用者の視覚に入るところからかわらなければいけないことをあらためて注意喚起した。

4. グループホーム入居者の深夜の単独外出

深夜、グループホームの勝手口を開けて、入居者が単独で外出をした。ホームの玄関のカギは施錠され、サムターンをはずしてあった。勝手口にはカギが二つあり、そこは非常時の出口のため、カギははずしていなかった。

当該利用者は朝8時過ぎに警察により保護された。大きなケガはなかった。

本件にかぎらず、経過とともにグループホーム入居者の状況も変化している。それによって、ホームの設備や居室割の見直しが必要になってきた。今後の対応課題である。

2. ひやりはっと事例

1. 利用者・入居者同士のトラブル

利用者・入居者同士のトラブルが増えている。たとえば、言葉による言い合い、言葉の代わりの他害等である。その都度、両者の話をうかがい対応をしている。

支援者には、両者を強制的に謝らせ仲直りさせることや、同様のことが繰り返されたとき、「今、謝ったばかりでしょう」「何度、言えばわかるの」という対応をしてはいけないことを伝えた。

謝るということを伝えることは大切である。しかし、強制し感情にふたをしてはいけない。また、利用者・入居者が仲良くすることは必要である。ただし、お互いの相性も大切にしてほどよい距離感を持つ関係作りが必要である。

また、何度そのあやまちを教えても繰り返されるということは、現状の伝え方では効果がないということを支援者も認識し、別のかかわり方をすることが必要である。

以上のことから、支援は予測することが重要であると考え。そのためにはまず日常の様子をよく見て、支援者が未然に防げるよう予測することが必要である。そうすることによって利用者・入居者間の適切な距離感を保つことができる。

2. 支援者の声かけ

利用者への声かけ場面において、危険やトラブルを回避させたり、利用者の行動を促すために支援者が虚偽の表現をすることがある。「実行できないことは言わない」ということを意識して言葉を選ばなければいけない。

3. 以前に注意喚起したことが守られていない

以前にひやりはっと事例があり、周知されたことが徹底されていない。

- ▶ 塗布薬や市販薬が手の届くところに置かれている
- ▶ 洗剤、スプレー等が手の届くところに置かれている
- ▶ 刃物等が正しく管理されていない
- ▶ 掲示物に画鋸が使われている
- ▶ 個人情報管理における重要バックのカギがかかっているまま使用されていた

事業所によって偏りがある。さらに同じことを繰り返す傾向がある。IF-THENの方程式（もしこれをすると結果がこうなる）を使って支援者ひとりひとりが危険を理解するようにする。

3. まとめ

日々の業務において目的を理解しないで、取組んでいることが原因である。支援者が変わった際、その業務の目的が十分に周知されていなかった。日々の業務で行われていることにはどのような意味があるのか、その目的を伝えること、さらには法令根拠も意識しながら注意喚起していくようにする。

生活介護(定員/35名)	04月	05月	6月	07月	08月	09月	合計1	10月	11月	12月	01月	02月	03月	合計2	総合計
クローバー深谷(現員/22名)	392	394	424	428	397	362	2397	436	409	373	368	379	397	2362	4759
Begin(現員/6月より9名)	162	166	165	172	161	147	973	185	172	148	160	160	166	991	1964
合計	554	560	589	600	558	509	3370	621	581	521	528	539	563	3353	6723

支援センター(定員/15名)	04月	05月	6月	07月	08月	09月	合計1	10月	11月	12月	01月	02月	03月	合計2	総合計
いとぐるま(現員/15名)	124	118	118	110	112	104	686	146	137	114	117	126	137	777	1463

GH(定員/24名)	04月	05月	6月	07月	08月	09月	合計1	10月	11月	12月	01月	02月	03月	合計2	総合計
みんとの家(現員/6名)	154	158	153	158	159	149	931	158	153	144	154	140	153	902	1833
れもんの家(現員/6名)	163	164	164	169	162	159	981	170	162	158	160	151	170	971	1952
みかんの家(現員/6名)	154	154	158	160	143	149	918	154	157	152	142	142	153	900	1818
いちごの家(現員/6名)	137	137	137	143	127	132	813	140	134	133	146	139	155	847	1660
合計	608	613	612	630	591	589	3643	622	606	587	602	572	631	3620	7263

※ GHは宿泊延べ人数

社会福祉法人クローバー 2018年度 レクリエーション前期活動報告

	地域活動支援センター	生活介護事業所クローバー		共同生活援助(GH)ゆうきの里			
	いとぐるま	クローバー深谷	Begin	みんとの家	れもんの家	みかんの家	いちごの家
04月	04日(水) 入社式&始業式 06日(金) 花まつり 25日(水) 音楽活動	04日(水) 入社式&始業式 19日(水) 新人歓迎会	04日(水) 入社式&始業式 06日(金) 花まつり(妙法寺) 25日(水) 音楽活動	4日(水) 入社式&始業式	4日(水) 入社式&始業式	4日(水) 入社式&始業式	4日(水) 入社式&始業式
05月	16日(水) 施設見学第二しもごう 23日(水) 音楽活動	9日(水) 防災センター見学(2階G) 29日(水) 防災センター見学(1階G)	23日(水) 音楽活動	28日(月) 誕生日会	01日(火) 誕生日会 13日(日) 誕生日会	24日(木)~25日(金)旅行	29日(火) 誕生日会
06月	05日(火) 日帰り外出 八景島水族館 (福祉バス利用) 27日(水) 音楽活動	3日(日) 原宿ふれあいフリーマーケット販売 22日(金) シネマ&マルシェイベント販売	08日(金) 日帰り旅行 三崎港 27日(水) 音楽活動	25日(月) 誕生日会			
07月	20日(金) 喫茶外出 ガスト 25日(水) 音楽活動	20日(金) 深谷盆踊り参加	17日(火) パン工房見学① 20日(金) パン工房見学② 25日(水) 音楽活動	05日(木) セタ 18日(水) 誕生日会	05日(木) セタ		17日(火) 誕生日会
08月	22日(水) 音楽活動	04日(土) 谷中公園夏祭り販売 05日(日) 和みの園夏祭り販売	22日(水) 音楽活動	15日(水) お楽しみ会	15日(水) お楽しみ会	10日(金) 夏のイベント	10日(金) 夏のイベント 23日(水) 誕生日会
09月	13日(木)~14日(金)旅行 1日目ドイツ村 2日目サッポロビール工場 26日(金)音楽	7日(金)・12日(水) 創作活動施設見学(創作班)	26日(水) 音楽活動	27日(木) 誕生日会			
10月	18日(木)施設見学 スコップ 24日(水)音楽活動 28日(火)戸塚教会バザー	4日(木)・5日(金) 2階グループ旅行 14日(日) 原宿ふれあいフリーマーケット販売	19日(金) 日帰り旅行 熱海 24日(水) 音楽活動 28日(日) 戸塚教会バザー				30日(火) 誕生日会
11月	16日(金) 歓迎会 28日(水) 音楽活動	1日(木)・2日(金)1階グループ旅行 13日(火)芋煮会 15日(木)まるい食遊館販売 23日(土)深谷保野ケアプラザ祭り販売 28日(水)みかん狩り	28日(水) 音楽活動	15日(木)~16日(金)旅行	18日(日)~19日(月)旅行		
12月	12日(水) クリスマス会 音楽活動	19日(水)クリスマス会	12日(水) クリスマス会	6日(木) 誕生日会 21日(金) クリスマス会	21日(金) クリスマス会	21日(金)クリスマス会	6日(木)~7日(金)旅行 18日(火) 誕生日会
01月	4日(金) 初詣 鎌倉 11日(金)新年会 23日(水)音楽活動	4日(金)2階グループ初詣 7日(月)1階グループ初詣 18日(金)成人のお祝い	11日(金) 新年会 23日(水) 音楽活動		10日(木) 22日(火) 誕生日会		
02月	27日(水)音楽活動	1日(金)節分	14日(木) パン工房見学① 22日(金) パン工房見学② 27日(水) 音楽活動				
03月	6日(水)日帰り外出 三菱みなとみらい技術館 27日(水)音楽活動	6日(水)忘年会	27日(水) 音楽活動	16日(土) 食事会	25日(月) 送別会		

社会福祉法人クローバー 2018年度 後期防災訓練報告

	地域活動支援センター	生活介護事業所クローバー		共同生活援助(GH)ゆうきの里			
	いとぐるま	クローバー深谷	Begin	みんとの家	れもんの家	みかんの家	いちごの家
04月	防災用品確認	備蓄品・防災用品の確認、入れ替え (各グループで分担して実施)	防災用品確認	防災用品の確認	防災用品の確認	防災用品確認	
05月	地域防災拠点への避難訓練	横浜市民防災センター見学 (各グループ)	地域防災拠点への避難訓練	火災を想定した避難訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した避難訓練 消火器訓練、消火器点検	避難経路確認 消火器訓練、消火器点検	防災用品確認
06月	作業グループ別避難訓練 (地震を想定した訓練)	火災を想定した避難訓練 ～製菓工房から出火 (全員参加)	作業グループ別避難訓練 (地震想定)	炊き出し訓練	炊き出し訓練	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検
07月	火事を想定した訓練	熱中症の予防と対策について確認 消火器点検 (全員参加)	2階から1階に降りる訓練 (火災想定)	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練	避難経路確認 消火器訓練、消火器点検
08月	消火器訓練、消火器点検	負傷者搬送訓練	消火器訓練、消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練 (9月に実施)
09月	防災用品確認	備蓄品・防災用品の確認、入れ替え (各グループで分担して実施)	防災用品確認	地震を想定した 地域防災拠点への避難	地震を想定した 地域防災拠点への避難	地域防災拠点への 避難訓練	地域防災拠点への 避難訓練
10月	全体防災会議 (11月に実施)	全体防災会議 (11月に実施)	全体防災会議 (11月に実施)	全体防災会議 (11月に実施)	全体防災会議 (11月に実施)	全体防災会議 (11月に実施)	転倒防止器具の点検 消火器点検 全体防災会議 (11月に実施)
11月	地域防災拠点への避難訓練	地震を想定した 作業別避難訓練 一時避難場所の確認	地域防災拠点への 避難訓練	みんと・れもん合同消火訓練 (消防署) 避難経路確認 消火器訓練	みんと・れもん合同消火訓練 (消防署) 避難経路確認 消火器訓練	いちご・みかん合同消火訓練 (消防署) 避難経路確認 消火器訓練	いちご・みかん合同消火訓練 (消防署) 避難経路確認、消火器訓練 防災用品の確認
12月	地震を想定した訓練	地域防災拠点の確認	作業グループ別避難訓練 (地震想定)	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	
01月	火事を想定した訓練	調理室からの出火を想定 した避難訓練	2階から1階に降りる訓練 (火災想定)	防災用品確認	防災用品確認	防災用品確認	
02月	消火器訓練、消火器点検	ヘルメットの着脱訓練					備蓄品確認
03月	2018年度のまとめ 2019年度の計画作成 (別紙 年間防災計画)	2018年度のまとめ 2019年度の計画作成	消火器訓練、消火器点検 2018年度のまとめ 2019年度の計画作成	2018年度のまとめ 2019年度の計画作成	2018年度のまとめ 2019年度の計画作成	2018年度のまとめ 2019年度の計画作成	備蓄品・保管場所の整理 と保管方法の見直し

生活介護(定員/35名)	04月	05月	6月	07月	08月	09月	合計1	10月	11月	12月	01月	02月	03月	合計2	総合計
クローバー深谷(現員/22名)	392	394	424	428	397	362	2397	436	409	373	368	379	397	2362	4759
Begin(現員/6月より9名)	162	166	165	172	161	147	973	185	172	148	160	160	166	991	1964
合計	554	560	589	600	558	509	3370	621	581	521	528	539	563	3353	6723

支援センター(定員/15名)	04月	05月	6月	07月	08月	09月	合計1	10月	11月	12月	01月	02月	03月	合計2	総合計
いとぐるま(現員/15名)	124	118	118	110	112	104	686	146	137	114	117	126	137	777	1463

GH(定員/24名)	04月	05月	6月	07月	08月	09月	合計1	10月	11月	12月	01月	02月	03月	合計2	総合計
みんなの家(現員/6名)	154	158	153	158	159	149	931	158	153	144	154	140	153	902	1833
れもんの家(現員/6名)	163	164	164	169	162	159	981	170	162	158	160	151	170	971	1952
みかんの家(現員/6名)	154	154	158	160	143	149	918	154	157	152	142	142	153	900	1818
いちごの家(現員/6名)	137	137	137	143	127	132	813	140	134	133	146	139	155	847	1660
合計	608	613	612	630	591	589	3643	622	606	587	602	572	631	3620	7263

※ GHは宿泊延べ人数